

# 白ゆり

7  
号

西南学院大学女子同窓会  
(西南ゆりの会) 機関誌  
1999年11月1日発行  
発行人 渋田壽子  
福岡市早良区西新6-2-92  
西南学院大学同窓会内



### ◆第13回秋の集い◆

## 土曜の昼下がり、カルテツトを聴く



「秋の日のヴィオロンの溜め息の……」と、ヴエルレーヌの詩のように、枯れ葉舞う。晚秋に聴く音楽は、やはり弦の響きがぴつたりです。

第13回（九八年度）秋の集いには、女性ばかりの弦楽四重奏団を迎えることができました。福岡を中心ミニコンサートをなさっている若いグループです。

リーダーの佐々木さんは、西南学院大学文学部哲学専攻であった、故三串一士教授の御長女でいらっしゃいます。因みに、三

串教授は、西南オーデンの「皇帝」などを創設された方です。

大名町中部教会の

清潔な会堂にハイド

を回

た土曜の午後のひと時でした。

音楽会の後のハイティタイムには、八十名の方が参加され、ワインにほんのりと頬を染めての楽しい語らいは、夜のとぼりが降りるまで続きました。

（文責・宮崎朝子）

### ◆第23回ミニサロン『さよなら1号館』

第23回ミニサロン「さよなら1号館のつどい」が、七月二十四日、大学の2号館で開かれました。1号館の半分は既に取り壊され、残りも解体作業が始まっています。

このことを知り、同窓生にとっては一番思ひ出深い学舎が、姿を消してしまわないうちに感謝の気持ちで見送ろうという趣旨のもとに、急速企画されたものです。なお、当企画は、大学創立五十周年記念事業の一貫にも位置づけられ、大学共催という扱いにもらっていたときを持ちました。

立ち入り禁止の札を確認しながら、そぞれ四十七年にわたり、学院の発展と

急な集いではありました。村上学長

はじめ、先生方、同窓生、また当日行われていたオープニンギャンバスに参加の受験生の参加もあり、和やかなひとときを持ちました。

さよなら、ありがとうございました。

（文責・高山和代）

第23回ミニサロン「さよなら1号館のつどい」が、七月二十四日、大学の2号館で開かれました。1号館の半分は既に取り壊され、残りも解体作業が始まっています。

なお、新しい1号館は来年十二月に竣工予定です。ご多忙の中、この集いを支えてくださった皆様に、お礼を申しあげます。

さよなら、ありがとうございました！

（文責・高山和代）

### ◆はじめての名刺交換・新春の集い

旧正月に当たる二月十六日、ゆりの会初の名刺交換会を、中央区のレストラン・シエ・フランスで開きました。

女性の社会進出が進むなか、ゆりの会員の有職率も当然のことながら増加しています。働く女性の職場環境がまだま



楽しい会話でもり上がった会場



号館

共に歴史を刻ん

できた1号館の

一室、一室を回

つた後、学長、原

田先生、齊藤先

生から、その思

かい出話を聞きました。

（文責・高橋和代）

だ整えられていない現状のなか、同窓生

の連帯の輪が、少しでもそのため役立つことを願って、また、ともすれば家の

中に閉じ籠もりがちになる主婦にも社会の一員として活躍できる場の提供の一助

にもなれば、との趣旨で、開かれたもの

です。

当日は、およそ八十名の会員が参集し、

それぞれ名刺を交換しました。普段、名刺とは縁のない家庭の主婦も、趣向をこらした手づくりの名刺を持ち寄つて、大変楽しい会でした。

来賓として、村上学長、山田広報部長などを大学から迎え、また、福岡市婦人センター・ミカス館長の野口郁子さん（九大・松の実会）からもお祝いと励ました。

初めての試みでしたが、大変好評で、これからもぜひ続けて欲しいという感想が多くありました。（文責・田村明美）

（文責・高橋和代）

今、ときめいている女性達を紹介するコーナーです。

今回、商業部経営学科76期生の徳安和美さん（旧姓井野）に登場いただきます。

徳安さんのご生家は、かの有名な私達にとっても思い出すのも懐かしい。今でもその名を聞くだけでも、コーヒーの香りが漂つてきそうな喫茶店“ばんぢろ”で、ご主人はこれ又博多の老舗“吉塚うなぎ”的専務さんです。ですから生まれも育ちも博多っ子。今は博多の町をよく愛するバリバリの博多ごりよんさんの会・女性の会の主宰者です。

福岡という地名よりも、特に博多という地名の中には昔懐かしい、又、今でも古い良き伝統を守り続け、それを自分の生活の中に生かし続ける、人の寄り合の町、心寄せ合う町という響きがあり、又、そのことを期待して下さる方が多い中、博多部に住む人間としての責任を感じ、彼女は博多部ならではの伝統行事を通して、育まれる人々の日常の営みに誇りを持ち、共同体の一員として、わが町、ふるさとの活発化に一生懸命、心を注ぎ自分にやることは何かを常に探し出し、動き回って、着実に博多部の中心の人々の心を動かし続け、その中から生身

の生活者としての情報を、福岡一円へ発信し続けています。

彼女が今取り組んでいることの一つは、

市立博多中学校（博多一中と二中が統廃合で一つになった）でゲスト・ティーチャー

という名の放送委員会の指導補助として、現役中学生に話し方、文章のまとめ方等をアドバイスしていることです。

つい先日も、彼女の主宰する「がめ煮の会」の例会にも（毎年、年二回博多ル

多くのを語るよりは、本当に実行してしまったが、う和美さんを、同窓生として、敬意を表わし、誇りに思いました。

一西南大で学んで良かった事は？

奉仕の精神が自然に身についたこと。（生まれもった彼女の特質とお見うけしました）

S.M.D.（西南ミュージック・デスク）に所属していました。クラブ活動は、上下、左右、全円方位的に友人が出来、学生時代の全ての動きが現在の活動の基礎になっていると思う。

### 一 学生時代の活動は？

## 徳安和美さん

（商業部経営学科76期）



# HANDSOME WOMAN —⑧

西南には開学の原点である、フロントニア・スピリット、チャレンジ・スピリットをもう一度思い出してほしい。自由の精神はおおいに結構だが、互いに認め合い過ぎると、バラバラに見える。共同体から生まれる絆、全体の中の個の役割、本当に個性的であるということは何かを考えさせる場として、西南が位置づけられていると思う。

特色のない、個性のない大学、存在価値が希薄になっていくのは残念ですから。

今もつて少女のように目をきらめく輝かせている徳安さん。ルネッサンス博多が、まさに活躍ください。みんなで応援します。

（山崎美知子記）

### ♥ カンパのお礼とお願い

今年は大学開学五十周年にあたります。記念の行事にゆりの会もできるだけ協力したいと願っています。出費多端のカンパをお願いする次第です。お志のある方は同封の振替用紙でお願いいたします（一口千円、何口でも）。昨年度力

ンパ頂いた方のお名前を感謝と共に記させていただきます。手違いで記載漏れの方はどうぞ事務局までお知らせ下さい。

（会長・渋田壽子）

東多香子 青山容子 赤岩喜代子 浅沼ミツ子 安西忍 井口紀子 伊藤一三子 浅沼川幸子 石橋和子 石松治子 一山礼入江尚子 岩尾豊子 上ノ土晴代 上の浜素子 内山佐多子 浦部みどり 占部睦子 江副史子 尾崎恵子 大澤節子岡部葉子 岡村裕美 嘉村理実 甲斐タツ子 片山昭子 門田洋子 魁永美智子神田幸子 河内光子 木村多美子 草場久子 桑野綾子 古賀英子 佐藤比佐子佐藤弘子 岩田保志子 柴田朝子 柴田良衛 渡田壽子 庄野信子 將口忍 白井紘子 白石浩子 白石隆子 白川潔子白水京子 白水心子 鈴木黎子 謙訪潤子 染谷多美子 田島華代 田村明美高尾晴美 高丘和子 高橋靖子 高山和代 出口シツエ 寺園峯子 土井光子 中島利子 友枝三栄子 中島侑子 中島中子初子 中野茂代 中村真弓 中村和子中村八千代 中西和代 長束正之 西村淳子 羽根田寛子 樋口映子 藤井智子藤原良一 星子孝枝 松尾公子 松尾律子 子 松本育子 松本京子 松本節子 松本智子 松永惠子 松延昌子 三原貴美子 三矢順子 篠妙子 宮崎朝子 宮崎孝子 岩城政校 宮原三知子 松田三恵子 森憲子 矢加部万里子 矢田晶子 矢野多美恵 安武伸子 山崎美知子 山崎一美 山田真知子 山口秀子 吉田敏子 吉田扶久子 吉田美枝子 吉武美智子 吉光敏子

# 西南今昔物語

我が青春の  
ノスタイルジー

## 「山小屋」

まず訪ねたのは、学生の頃クラブの帰りに先輩達とよく行った「山小屋」。すべて手作り、といつた感じの山小屋風の店内で、クラブの話、恋の話、時間を忘れて話し込んだものです。店内は今もあの当時のままで、青春の日の自分がそこにあるような気がしました。

マスターの新井政男さんは、今から三十年前、三十五歳のときにこの店を

開きました。「昔は、学生さんがクラブ活動の後に大挙して押しかけたものだけれど、この頃の学生さんは個人主義というのか、団体活動をしたがらないようだね。それに、下宿の学生にとっては、ここ鍋焼きうどんや雑炊が、おふくろの味で嬉しかったようだが、おふくろの味で嬉しかったようだけれども、今の学生はほとんどキッチン付きの部屋に住んでいるし、ファーストフードやファミリーレストランに行って、ここには寄りつかないね。」と、少し寂しそうに語ってくれました。

## 「文七」

西新の表通りから少し入りこんだ路地に、古き良き時代の香りを漂わせた食堂「文七」があります。オーナーの久保田七蔵さんは、この地の長老的存在です。「食は愛なり命なり」をモットーに、二十三年前にオープンしたこの店は、家庭料理が主流で、お袋の味で人気があつたのですが、時代の流れと共に主食離れの傾向があり、現在では副食中心となつてているそうです。ただ、ちゃんとだけは、昔と変わらぬ味で、今も人気があるそうです。現在の西南生の印象をお訊ねしてみると、

分らしさを大切にしているのは認めるけれども、コミュニケーションの取り方がへたで、人とのふれあいが少ないような気がするね。」という答えが返つてきました。

◆◆◆◆◆  
「まあちゃんうどん」「蜂業饅頭」



文七のオーナー久保田七蔵さん

西南で過ごした四年間。それはそのまま、西新で過ごした四年間でもありました。この街で学び、遊び、泣いて、笑つた。西新の街角に立つと、あの頃の時間が、鮮やかに蘇ります。蜂業饅頭、まあちゃんうどん、ボンコアン・ビオネ庄こう聞いて、「ああ、なつかしい！」と叫ぶのは、我が子が、大学生になる世代。その子ども達のほうはどういえば、ヨカトビア通りの向こうが海だったと言つても、にわかに信じられないかもしません。その西新の、今と昔を訪ねて、懐かしい街に行つて参りました。懐



山小屋のマスター新井政男さん



最後に、大学に戻つて昨今の大学生協事情を。

その昔、苦学生の強い味方であつた大学生協は、安くて家庭的な食事を販売し、書籍や日用雑貨を安く提供してくれ

が、今も昔と同じ味です。  
どちらも、店は新しくなりました  
が、今も昔と同じ味です。



西南の今昔  
五十年前の西南は、まさに白砂青松の地でした。校内に住んでいた私は、夏の朝、ポンポン蒸氣の漁船の音に目覚め、バケツを下げて浜に走りました。地引き網の手伝いに対して漁師たちは、子供にも揚がった魚を二～三匹バケツ

百道の今昔  
五十年前の西南は、まさに白砂青松の地でした。校内に投げ入れてくれたのです。また、暗い夜の校庭をふくろうの鳴き声に怯えながら松林の中を駆け抜けたものでした。

百道は変わりました。学院も大きく発展しました。五十年後、ここはどうなつているか想像もつきません。願わくば校庭の松は、建学の精神と共に残って欲しいのです。

## 百道の今昔

西南学院大学学長  
村上 隆太



れる、いわば、母のようない存在であります。

でもらうレシートには、価格の他に力口リーア数も表示されています。

売り場面積が百坪もある購買部では、書籍や雑貨といった従来の商品の他、今ではパソコンまで扱っています。

日、学生食堂はビュッフェスタイルで、安くて美味しい様々なメニューを揃えています。

そして目を引くのは、西南のロゴの入った品々……トレーナーや文房具はもとより、「テールヴェルト・ブッセ」というオリジナルのお菓子もあります。これは、学生達が教育実習や会社訪問の際のお土産にしたり、教授陣も、学会の時に持参したりと、なかなか好評のようです。

JRや飛行機のチケット、パック旅行、レンタカー、引っ越し、自動車学校、はてはセカンドスクールといわれ



広く明るい食堂

イラスト＝尾崎恵子  
取材と文＝桑野綾子  
河内光子  
木村亮子

西新と西南、二つの素晴らしいふるさとを持つていて私たちには、幸せです。

の街と言えるのかもしれません。  
得のための学校幹旋まで。こうしてみると、大学はそれ自体が一つ





・江崎俊子（旧姓高木・法76期）

現在、ひよんなことから「西区いきいき画」のテーマで学習中です。学生時代以来のレポート提出を目前にして、頭をかかえておりますが、西南で学んだ考え方や生き方を、言葉の上だけでなく活かせる気がしています。

汲めども尽きない心の糧を、未だにいろいろな形で受けています。あらたに感謝しております。そして、それを次の世代に伝えていく責任も痛感している毎日です。

・松本智子（旧姓牛嶋・英文70期）

75期生以前の方なら御存知のアルマ・グレーヴス先生に会い、フランクリントン・ルイジアナ州に行つきました。（Nishijii）とかいう言葉など、しつかり覚えていらっしゃいました。写真もたくさんとつてきました。必要な方はお見せいたします。グッド・サマリタン・ホームにお住まいです。二月で92歳になられました。（勤務先・福工大附属高校・電話六〇六一三一三一）



のクラスの生徒たちに尋ねると、ほぼ百分率が「結婚したら苗字を変えたい！」とのこと、「なぜ？」

・亀永美智子（英文72期）

同窓の方達のご活躍をお聞きしたり、会報ではのはつらつとしたご様子を見ついています。50才を目前にして、精神的にも肉体的にも、また、経済的にも変動期をむかえ、西南での四年間が貴重な時期で、私の人生の中で重く大きなものだったという思いを強くしています。

のお知らせが舞い込み、心躍る一年でした。

七月に主人の転勤で二回目の東京ですが、新宿から25分、小田急線新百合ヶ丘の緑の生活にやつと慣れてきた昨日です。どこに住んでも「白ゆり」お届け下さって感謝しています。ページをめくりながら、青春を共にした友等の活躍に触発され、今まで30年間続けてきた「英語塾」を新しい地

で始めてみようかと思案中です。

・中村さとみ（旧姓高橋・英文87期）

初めて案内状をご送付頂き、嬉しく拝読致しました。一九九五年三月に結婚し、今は主婦業に専念致しております。夫も85期生で、大学で同じクラブでした。今でもクラスマゼミの友人、クラブの友人とよく会つています。

・諫訪潤子（旧姓城戸・児教58期）

「白ゆり」4号の（C.K.ドージャー先生のゆかりの地を訪ねるアメリカ旅行）のお話を大変興味深く読ませて頂きました。アメリカ旅行はまだ一度も実現いたしませんが、急にとも行つてみたりました。福岡を離れたので、同窓会の出席がで

きませんが、「白ゆり」を読むことで、同窓の皆さまにお逢いしたような楽しい気分を味わっております。

・浜崎俊子（旧姓富野・法74期）

西南学院在籍中はViolinばかりオーケストラで弾いておりました。その時の仲間と現在、交流できますことが、生活を大変楽しいものしております。

・福井康子（旧姓藤田・仏專74期）

仲良しグループの一人武末（原口）祐子さんのご活躍の様子を「白ゆり」で拝見でき、とても嬉しく思いました。「白ゆり」のコピーを早速、他の友人へ送り、小さな同窓会ができました。

・伊藤一三子（遊李）（旧姓比利・英文62期）

英語を教えるかたわら、書道を始めて早十年余り経ちました。今年は（毎日書道展）五十年の記念行事として海外展が催されました。五月にはパリ展、八月にはストックホルム展に参加し、文化交流のお手伝いがきました。上手に英語を話す人は多くなりましたが、書道家として英語を話せる場が与えられ、あらためて母校で学んだことを誇らしく思います。

・高橋直子（旧姓高橋・英文83期）

結婚しても名前を変えないでよい心地よさを味わっています。養子縁組ではないのに、妻の姓を名乗るのはきわめて珍しいこと。

夫婦別姓法案が否決されてしまい、取った決断は自分の姓を続けること、夫には大変感謝しています。ところで、私

・小串和美（旧姓宮崎・英文67期）

「白ゆり」を読むことで、同窓の皆さまにお逢いしたような楽しい気分を味わっております。

小学校から大学まで、今年は特に同窓会

ご紹介したいお便りはまだたくさんあります。紙面の都合で次号に回させていただきます。

本欄へのみなさまからのお便りをお待ちしております。

## 平成11年度後半の事業のご案内

ゆりの会では、例年、(秋のつどい)を開催してきましたが、本年は大学開学50周年記念イベントが11月13日に開催されますので、この50周年イベントに一人でも多くの方に参加していただきたいと思い、本年の(秋のつどい)を中止いたします。

また、今年の一月から開催を始めました(新春のつどい)を開学50周年記念・ホームカミングパーティとして、左記のとおり企画いたしました。

・日時 平成12年1月8日(土)午後  
 ・会場 大学2号館8階  
 ・アトラクション 中国古楽器の演奏  
 趙國良氏—胡弓(2弦胡琴)唐時代  
 江 舟氏—楊琴(音はピアノに似ている)  
 同封の別紙ご案内をごらんの上、是非ご参加ください。では、11月13日(土)50周年記念行事の会場は福銀ホテル及びシーホークホテル&リゾートでお会いしましょう。

### ● 98年度収支報告 ●

#### 1. 収入の部

項目	収入額	備考
補助金	400,000円	大学同窓会より
行事収入	1,098,569	9年度記念講演会収益金、13回秋の集い・ミニサロン・新春の集いの会費
雑収入	1,112	普通預金利息他
繰越金	36,124	平成9年度繰越
収入の部合計	1,535,805	

#### 2. 支出の部

項目	支出額	備考
行事費	618,238円	13回秋の集い・ミニサロンの会場費 料理、講師謝礼等
慶弔・渉外費	60,220	アメリカツアーや河野さん、各大学、各教会への上塗他
通信費	413,380	「白ゆり」他案内状等の発送費
印刷費	354,795	「白ゆり」6号、案内状、封筒他
会議費及事務所費	52,500	役員会、事務所費
雑費	6,964	文具、フィルム他
繰越金	29,708	平成11年度会計へ
支出の部合計	1,535,805	

### ● 98年度事業報告 ●

☆西南学院大学同窓会総会に積極的に参加: 6月12日 (金) 於・福岡国際ホール

☆ゆりの会 98年度総会: 6月12日 (金) 於・福岡国際ホール

☆第22回ミニサロン: 7月17日 (金) 於・福岡赤煉瓦文化会館

・講師: 長洋一先生 (西南学院大学教授)

・演題: 博多の歴史について

☆第13回(秋のつどい): 11月28日 (土) 於・福岡中部教会

室内楽演奏\*女性のカルテット (高橋由美・佐々木悠紀子・中村はるみ・伊藤晶子の4氏)

☆名刺交換新春の集い: 平成11年2月16日 (火) シエ・フランス

☆ゆりの会創立10周年記念旅行 (米国): C・K・ドージャー先生ゆかりの地を訪ねて

○広報紙(白ゆり) 第6号発行

○サラマッポの会に奨学金 (フィリピンの女子大学生に学費援助)

○役員会: 月1回の割合で定例会、その他必要に応じて臨時役員会及び各委員会

◆開学50周年記念 第3回西南ブリエル・コンサートへのお誘い 少人数ながら、指揮者も唱い手もみな、「西南」の絆で結ばれた合唱団です。美しいハモニーをぜひお誘い合わせてご来聴ください。

・日時 十二月十日(金)午後六時三十分開演  
 ・場所: あいれふホール(10階)福岡市中央区  
 舞鶴二丁目  
 ・曲目: クリスマス・ソング、懐かしの世界  
 ホームソング  
 ・入場料: 八〇〇円

◆同窓会開催のお知らせ  
 西南学院大学70期、児教科68期、合同同窓会を開催します。来年、二〇〇〇年八月十二日(土)午後四時から二時間位・会場は福岡市のホテルオーロラ・会費は八千円です。  
 各同期の方は是非出席してください。  
 (連絡先)

大学70期生・山崎美知子  
 児教科68期生・高山和代  
 ○九二一五二一七九〇五  
 ○九二一五二一七九〇五  
 編集後記  
 ○初めて、カラー頁を設けてみました、いかがでしょうか。硬さを取り除くことに努力したつもりです。『もっと楽しく』に挑戦していきます。  
 素敵なイラストを描いていただいた尾崎恵子先生、ありがとうございました。  
 (山崎美知子)

○「西南今昔物語」の取材で、久々、西新界限の風に吹かれました。見慣れないきれいな建物。あの日の電停、あの日の本屋etcはどこへ行ってしまったのでしょうか? なつかしさを求めて、あの頃のひたむきな生き方を思い出して帰つてきました。  
 (河内光子・桑野綾子)

掲示板